

進捗状況の概要（1ページ以内）

本補助事業の全体の目的は、本学で、新学部発足とともに制度が整えられた「短期」学外学修プログラムを継続・充実させる一方で、「長期」学外学修プログラムを新設し、それを本学が提供する諸プログラムと有機的に結びつけ、学生の主体的学びの実現を目指すことにある。現在の進捗状況は以下のとおりである。

【学内の実施体制】平成 29 年度より、長期学外学修 Expanding Your Horizons (EYH) プログラムを新たに導入し、学生の主体的な学びの気づきと習得のための学修プログラムとして起動させ、このプログラムの充実を図っている。この EYH プログラムは、AP 推進室が中心になって、各学外学修先でのプログラムの企画・開拓・実施及び必要な改善を行っている。また、EYH プログラムを含めた AP の長期学外学修プログラムに関する評価・改善に関しては、副学長・教務委員長・国際化推進センター長・AP 推進室長などで構成される AP 推進会議（AP に特化した審議機関）によって各年度の計画及びプログラム内容・成果が評価され、必要な改善が図られている。平成 29 年度においては、長期インターンシップ先の拡大、平成 30 年度からのクォーター制導入に伴う長期学外学修への参加時期の拡大、実施における問題点（学生への周知方法、インターンシップ先の受け入れ態勢、現地指導の在り方等）の改善が図られた。

【中心となる取組】主体的な学びの気づき・習得・実践を目指す長期学外学修 EYH プログラムを（平成 29 年度より）新たに導入し、国内外での様々な長期インターンシップ等に学生を参加させている。さらに、既存の海外語学研修や交換留学プログラムについても、研修期間の長期化及び交換留学先の拡大を継続して図り、長期学外学修プログラムの充実を図っている。一方で、単位認定に必要なカリキュラムの改編およびクォーター制の導入を（平成 30 年度から）実施し、学生が長期学外学修に参加しやすい学修環境の整備を図っている。

【取組の成果】長期学外学修プログラムへの参加学生数は継続して増加しており、教育における学外学修の活用が促進されていると考えられる。また、授業以外の平均の学習時間も年度ごとにわずかではあるが増加しており、学生の学修態度の改善が図られていると考えられる。さらに、平成 29 年度より新設した EYH プログラムにおいては、参加した学生からは「将来的な視野が広がった」「積極的な姿勢が身に付いた」「問題解決のために色々な形で取り組む方々と出会い、考えを深めることができた」「自分自身の視野を広げ、成長することに繋がった」などの自己評価が報告され、学生の主体的な学びを促進していると考えられる。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】 AP 事業修了後は、学内の既存組織でノウハウを継承することとしている（カリキュラムとしての評価及び国内プログラムの実施は体験学習部会、海外プログラムの実施は国際化推進センター）。そのため、AP 事業当初から関連する組織の代表が AP 推進会議の構成員となっている。

また、採用している AP プログラム専任教員のノウハウを学科等の専任教員に移行させて、補助期間に導入した EYH プログラム等の実施も継続する予定である。平成 29 年度は、2 学科から専任教員 2 名が EYH プログラムに参加し、AP プログラム専任教員と協力して学生の指導等を担当した。また、平成 30 年度からのカリキュラム改編において、EYH プログラムでの長期学外学修のすべてを単位認定できるように対応が図られる予定になっており、学部教育の中でも継続性を確保しつつあるといえよう。

【学内外への波及効果】 HP を活用した情報発信、大学案内等による広報、および成果報告会の開催（平成 30 年度はテーマⅣの採択校 3 校による合同シンポジウムを企画）などを通して、学内外への情報発信を推進している。その中で、本学における「1 年次の全寮制教育+2 年次以降の種々の学外学修プログラムによる実践的教育」は、主体的な学びを学生に定着させる一つの効果的な教育モデルとして示すことができると期待される。